

芸術文化と民俗芸能の振興と保存・継承を

植山 太介 議員

問　現在の補助制度が、市が示す補助目的に十分つながっているか。

答　霧島市文化協会では、団体が活動を維持するという意味で、一定の効果があったと認識している。また、その中身については団体の方々とも話をしながら、うまく活用・活動できればと考える。補助目的の抜本的な解決は難しいが、スポーツ文化に特化したインスタグラムの開設等も行っている。今後はそれらを通じて魅力発信のサポートなど支援をしていきたい。

霧島市民芸保存会連絡協議会では、会員数の減少から見ても、十分効果が出ているとは言い難い部分がある。学校の中でコミュニティ・スクールと地域学校共働活動で連携しながら、すでに活動しているところがある。そういう活動を他の学校に広め、郷土芸能・伝統芸能が、地域の中で少しでも後継者が育つよう取り組んでいる。

また、社会教育課でもインスタグラムを開設しており、文化財も含め、いろいろな情報を提供している。今後も、この伝統文化の継承について、できる対策を取っていきたい。

詳しくはこちらで



M!LK吉田さんの魅力を生かした市PRを

竹下 智行 議員

関係機関が連携してひきこもり支援を

問　ひきこもりの相談件数と家庭内に隠れてしまうケースにどのように対応しているか。

答　ひきこもり支援員の実相談者数は令和5年度11人、令和6年度22人、令和7年度36人である。家族と接触できても、本人と直接面談することが難しいケースがある。令和8年度からは継続的支援事業を新たに実施し、積極的な家庭訪問を強化している。

その他の質問

避難所の在り方について

詳しくはこちらで

問　「おじゃんせ霧島大使」に就任した吉田仁人さんの経済効果をどのように波及・持続させていくのか。

答　吉田さんに関連する市ホームページやSNSの投稿に対して多くの閲覧があり、市内外から高い関心が寄せられている。特に若い世代へのPR効果を高められたほか、今後の本市への来訪や周遊につなげる絶好のきっかけとなった。

今後も吉田さんの発信力を生かしながら、継続的な観光誘客や本市の発展につながる大使との連携の在り方について検討していく。



市営住宅入居条件の見直しを

塩井川 公子 議員

問　空き住居の活用も含め、特に中山間地の市営住宅に若い世代が入居しやすくなるように、子どもの成長に合わせた内装にしたいとの声があるが、対応できないか。

答　模様替えは撤去が容易なものに限り申請書を提出し、承認を受けたうえで内容を精査し、個別に判断する。

不登校や成人のひきこもりへの接し方は

問　夏休みが終わり、不登校になりやすい現実に学校・行政で対策の準備はあるか。

成人のひきこもり相談窓口や関係機関へつなげ、社会との関わりを持てる仕組みはあるのか。

継続的に伴走して、温かいつながりが大切であると感じるがどうか。

答　各学校では、登校が心配される児童生徒へ電話連絡や家庭訪問等、状況に応じた柔軟な対応を行う。令和7年度は延べ343件の相談があり、当事者や家庭に寄り添った支援を行っている。令和8年度からは、重層的支援体制整備事業により一層の細やかな支援を構築し寄り添う支援体制を構築する。

詳しくはこちらで



豪雨災害での被害状況の情報共有を

今村 純子 議員

問　令和7年8月の豪雨災害では、床上・床下浸水はどこの地域にどのくらい被害が出たか数字として把握しているか。

答　左表のとおり。

罹災証明書の発行実績（件）

地区	床上	床下
国分	228	155
溝辺	3	5
横川	1	0
牧園	1	0
霧島	1	0
隼人	416	333
福山	3	11
総数	653	504

省の補助事業を活用しており、壁・扉等に閉鎖ができないなどの制約がある。平成28年度に防風ネットを設置し、一定の改善を図った。

また、不陸に関しては標高測定調査を行っている。



まきばドームの防風ネット

快適にスポーツを楽しめる環境整備を

問　まきばドームは建物に壁がなく網が張ってあるが、屋内に雨が入り込み冬は寒い状況である。不陸の問題もあるが何か対策を取っているか。

答　まきばドームは防衛

その他の質問

・介護保険ボランティアポイント事業について

・市営住宅の共益費について

詳しくはこちらで



サル被害の現状と今後の対策強化を

大坪 元気 議員

問　サルの被害が多くなっているが、ここ数年の農作物や人への被害の状況はどうか。

答　ここ数年、霧島市全域で農作物の被害が出ているが、人的被害はない。

問　家庭菜園の被害が多数出ているが、未然防止できる電気柵などの補助はあるか。

答　防護柵設置等の支援はある。補助条件は、農作物を販売までしていること。また、一定数の栽培面積や3名以上の農家が共同で要望書を提出することになっている。

問　サルの行動は広域だが、近隣市町や県との広域的な被害防止連携の状況はどうか。

答　令和5年から始良市が実施しているGPSを活用したサルの活動情報の提供を受けるなど近隣市町との連携はある。広域的な対策の推進や必要な支援は以前から県に要望しているが未だ構築されていない。

今後も被害拡大が予想されるため、引き続き、国・県に要望するとともに、広域的な視点にたった鳥獣被害防止対策の強化に取り組んでいく。

詳しくはこちらで



向花自治公民館の個別避難フロー図の活用を

鈴木 てるみ 議員

問　左記フロー図は発災直後の避難行動や、自助・共助の役割を見える化する有効な取り組みである。「避難行動のモデル」として活用してはどうか。

避難行動パターンフロー図　向花地区自治公民館

答　このような取り組みは、平時から地域全体での助け合いや支え合いの意識を高め、住民一人ひとりが早期の避難を自分事として捉えるきっかけとなり、災害時には適切な行動を促す指針になると考える。向花地区の取り組みを先進事例として周知し防災力強化につなげていく。

隠れ念仏洞の保存は

問　隠れ念仏洞を、貴重な歴史的文化財として保護してはどうか。

答　本市には現存する隠れ念仏洞が複数あり、これらの保護や継承については、今後、地質や経路などの問題から安全性が十分に確保できるか調査・研究していく。

その他の質問

HPVワクチンの情報提供について

詳しくはこちらで